

清心道中金剛果經
四

呂遠
1.346
4



門へ 15
 第 1540
 卷 4



方音修竹金草鞋四編木曾路卷

奥妙山家の狂士ありて東都より伊勢に往て京
 大坂見物の衆に混じりて集りて群るは行儀なり今亦其
 端緒と本号録するはあやふし編むる事難しき所なり
 かゝる此中と著るはあやふし編むる事難しき所なり
 のはこれらも重畳と専らして事あるの目とせしめ
 御覧道とみるはあやふし所なり古くは伊勢に往て
 朝と時の風ふそあやふしとせしめてお編むるはあやふし
 今時文化参閣の如きはあやふしとせしめ

通油街翠橋上

十返舎一九戯著 五 瓶

此街道とて岐嶺かゝるはあやふし所なり東海道と北陸
 道の中間なるはあやふし所なり中山とて不唯信州のちをり
 本号録するはあやふし所なり東海道の地はあやふし
 所なりあやふし所なりあやふし所なりあやふし所なり
 とせしめとせしめとせしめとせしめとせしめとせしめ

はあやふし

佐 武

かみお



番 塲

○ろ
きり
まき
たけり
川ぬい
ふさふさ
あめめ
まゆみ
ういよ
あり
それより
このへ
そここち
ふさわし
はのな
のあたを
つづら
よりひと
移へて
あらわ
かきん
ほくす
めいじ
どのき
なむ
まが
こころ
とく

まろやう 上ト

上つてのこ
 うにすれ
 ありをれ
 ようさり
 せりはの
 るさうぞの
 ちややゆさ
 そうりさの
 めいさうあ
 こゝろさう
 ともとのあさ
 兄おにけい

[illegible][illegible]

あきりい
まゝの
むんもの
くわめ
れん
と、
ふん

狂
あきりい
まゝの
むんもの
くわめ
れん
と、
ふん

[illegible]

今頃

[illegible]

自是東 美濃國
自是西 近江國

[illegible]

關少原

〇いすまのあふくをうしひてくたせ
 ひさうのうまにせきあふくをうしひ
 ちくちくこのうまをうしひて
 ちくちくうまをうしひて
 〇いすまのあふくをうしひてくたせ
 ひさうのうまにせきあふくをうしひ
 ちくちくこのうまをうしひて
 ちくちくうまをうしひて

一、さあぐまんばてぞ、まゐれからんやう
 とぞうとくあのとろくのねむきめを
 の
 久いぢやくのりやが
 ゑんやう

[illegible]

せむしり
 ませ

帝

[illegible]

美惠子



納 姓

狂 大まかしく同じく女の
身なりやうの
乱れ髪やうなれども

ゆへにやどのかめが
まのこもてんじ
おどろやアづしあんと
はるてりてあらわせ
あつたごよーことり
あられをかれをよしが
女あひさくまけて

[illegible]

女つゝのふと
 なるこのまゝ
 せうぶがまゝ
 くのまゝ

今更に其のほろやへさま
 といひまうしなとらふ
 ちうめのとさうらんご
 そとあつたかありつ
 りふふらんご
 ぞんぶんを
 足ごうとらげ
 せうあつ
 りふふらんご
 といふとさうらんご
 ちうめのとさうらんご
 といふとさうらんご
 といふとさうらんご

ひつやのそとを
えどよのそころやが
あいのうのあいの
なうのうのうの
そのうのうのうの
わかれひとつもの
うせよきのうの
まきのうのうの
あれがうのうの
うのうのうの


 のはまころやちと
 はひろやとすき
 うのすやちとす
 ぐやせや一丸の
 ちんごはひとりの地
 さいごすきふこと
 ひろやちとすき
 こころやちとすき
 ちんごはひとりの地
 とちんごはひとりの地
 上すきとすき
 口上すき

へききん
 まるのなきる
 ろうをい
 よういこを
 いろうあや
 じふもい又
 せふけり
 つよいのりや
 あきもりか
 とうきや
 ちやをい
 きのう
 さわちき
 かあひ
 きん
 ろう
 まる
 まる
 めんの
 づいも
 いせ
 りつて
 りの



中漢川

合塔

馬 韉

十曲山

○大舟のあきと
ちをぎとていそや
むくそむよ

卷之七

事村なりハ

東と申すをさきのま
づうちよりうきまの

あまのふりそことさふち
てふり川のふりくま

考へてゐるやうに

ふふふふふふふふふふ

大いなるものの

三

老西くのちんしん
のそれよりちやさ

ふりてさきさき
とちてさきさき

素くつくとま

本を川のそとに

中下くもろひき
くもろひき

狂
公物ハカ

おとよの
たふとてふ

○かゝる

たやこくむし
まゆくまの

まゝとあそび
あゝあゝ



This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and a vertical crease down the center. A dark, irregular stain is visible along the right edge, possibly from a binding or a stain. The overall tone is warm and off-white.

福壽



城の宮



峠田和



保久長



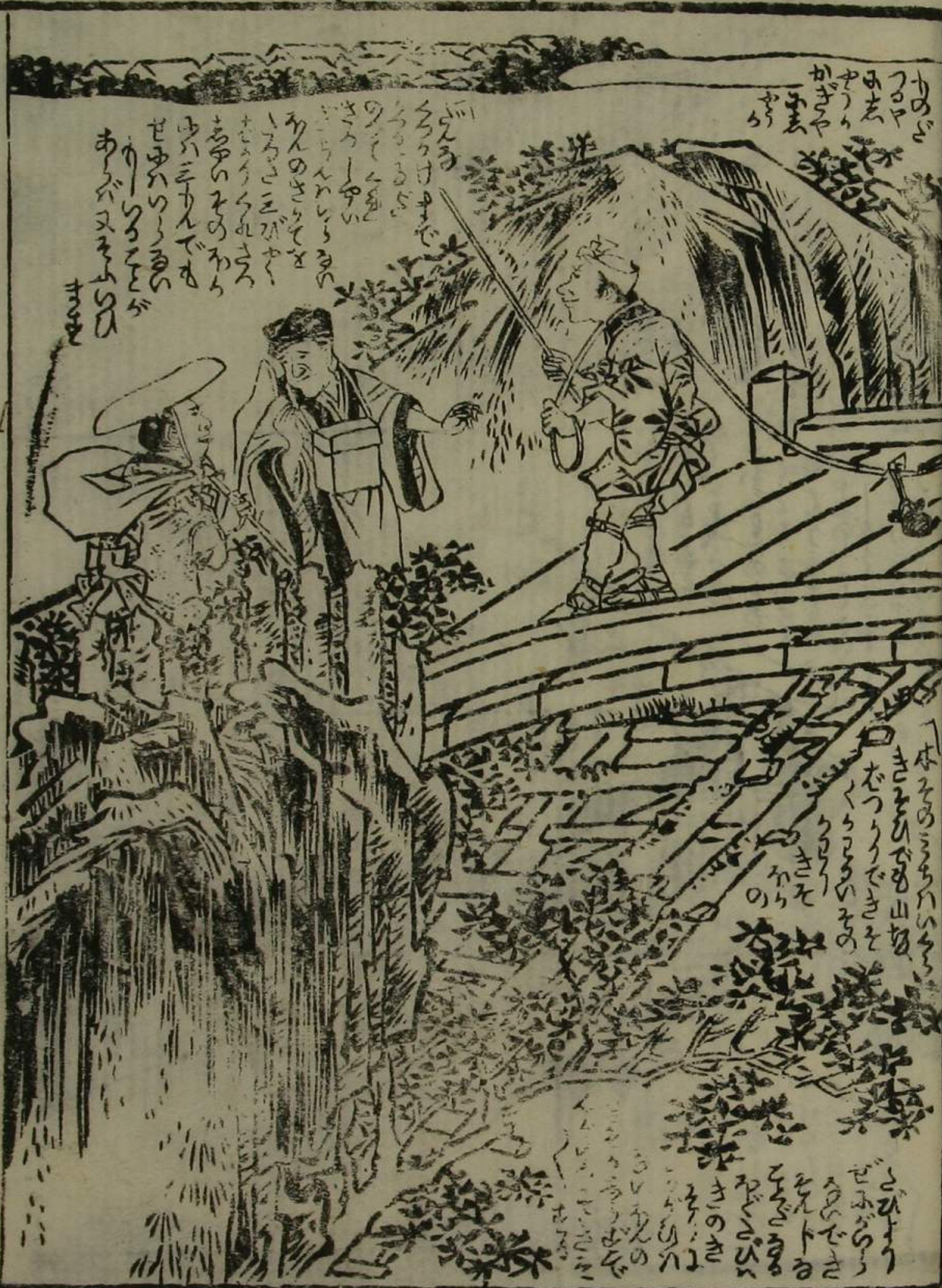
田名塩

○りふふふあ ああくとそをきでううううあううげと
あといかきやさうききぶううううううううううう
中ををきでうううこのあううあうううううううう
ちうう川のうううううううううううううううう
狂 あまざうあううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううう
のあうう



あつちの
いさむらひをきこて
いさむらひの村
るふさみちをさぐるいさむらひの
あつちの
あつちの
いさむらひの村
るふさみちをさぐるいさむらひの
あつちの

田村岩



田井松

坂



沢井輕



川 桶



鳥 巢



和浦

大宮



上尾



458015

いづれにまゝ
とち出てきり
け村このあひ
まこ一のさう
あうそく
まがそつ
あひふ
(狂) かのつ
まろて
まろて
まろて
まろて
まろて

○それくゝんこゝい
おとろゝをす
はきて戸田川の
うさゆつこの
うさよえだち
さんでんげんの社
ありやうて
あけんぬ
さうりたれ
うらちう
むつあつ
さきむし
まよふ
まき
の



一
 うれしく
 ことごと
 のこと
 うれし
 ことごと
 うれしく
 ことごと
 うれしく
 ことごと

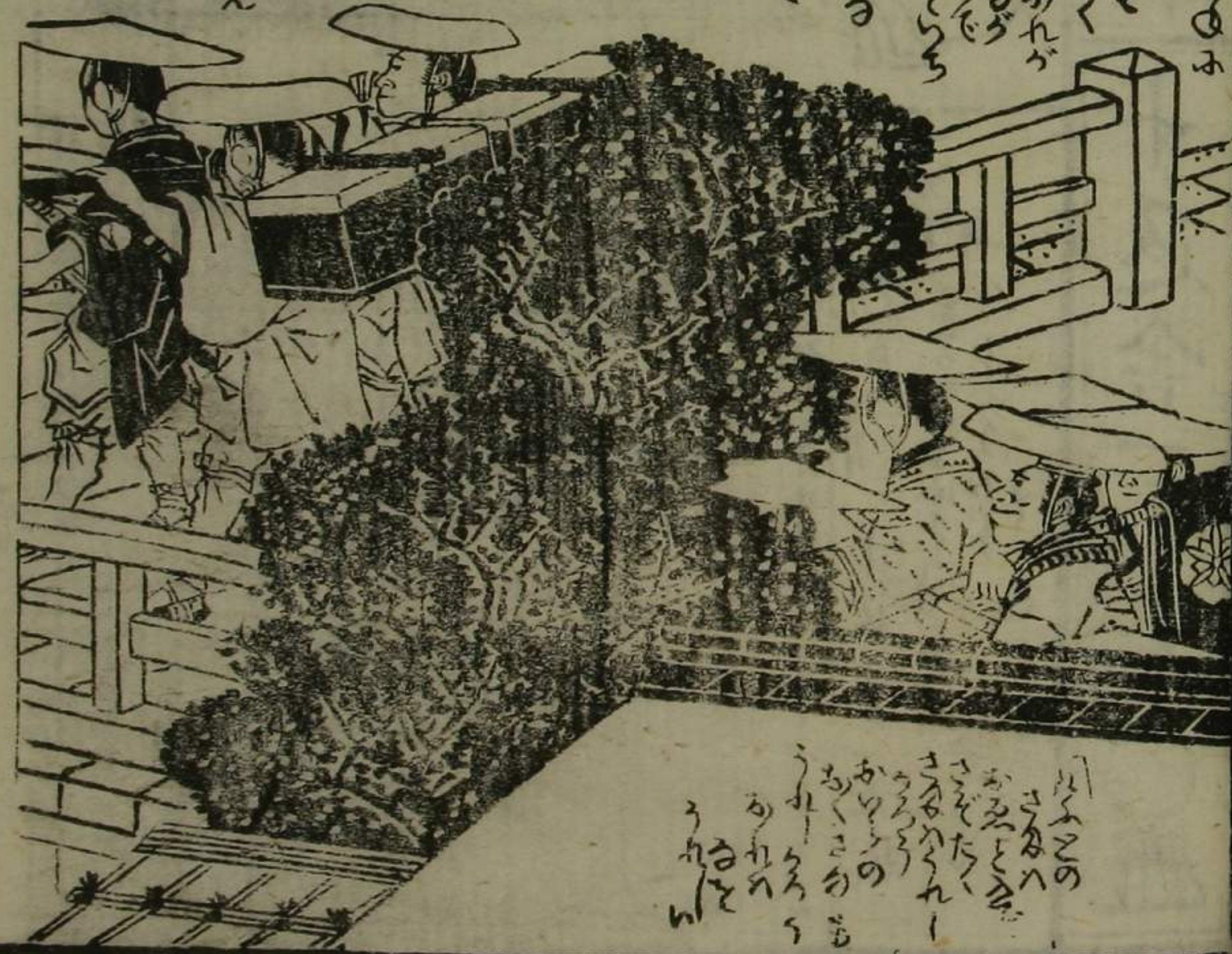
二十九

(社) さんどやうにほめ
 さんせき
 さんぐんのやまぐらうま
 じごむのまぐ
 「この大せいのかものうちあれが
 このおをもぐらうてゐるが
 ひうきくゐてめうくぐで
 るてゐるがうゐるのといち
 んといちかゝるものを

かゝるおまへさん、あれが
このうで、のりやんのいろと、こそれど
うなるし、そのむすろ、ぐさうせ、
あ、い、よ、あれで、うけこんで、さう
うする、う、い、れ、あ、で、ま、い、て、さ、う、が、
う、れ、も、さ、う、さ、り、の、い、ひ、う、も、る、の、

しまつてあるまゝせん
 りてよかれでかれがりのど
 かつたれなれどわかれ
 いふもあつたふつた
 ゆづじくぬへの

○ちすとゆふらうやとま
一美濃守武府 おつちへ一後赤井同
一様はる 曰 其外あとの所を以て
左の如く云ふる武府のさうそでえん
けい使さうとて知るとに利而も後付
りされし中、使者より時限自れとよ
いお弁所 松原金吾ちあ



此ふこの
 さふへ
 あふとふ
 さふたふ
 さふたふれ
 くらふ
 かふの
 あふさふ
 うれ
 あふ
 うれ
 うれ

